



ことしば 12月号



【チャレンジ目標】『にこにこあいさつ ふわふわ言葉 しっかり運動 いっぱい読書』



あいさつ運動

新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休校があったために8月半ばから始まった2学期。長い長いと思っていましたが、3密回避、マスク、手洗い、消毒、新しい生活様式による with コロナでの活動の工夫等々、コロナ対策第一に教育活動を試行錯誤しているうちに、あっという間に師走となりました。12月恒例の『今年の流行語大賞』には、コロナ関連の言葉が半数近くノミネートされているようです。今また、第3波が押し寄せてきています。コロナに慣れっこにならず、気を引き締めて感染症対策をとりながら、しっかりと2学期のまとめをしていきたいと思ひます。

地域とともに ～ 夢たまごネットの活動 ～

学校、家庭、地域にはそれぞれの役割があります。学校は同年齢の集団がともに学び、遊び、時にはけんかもしながら、生きる力を育てていきます。家庭は、生まれて初めて出会う小さな社会です。家族とのふれあいを通して、愛情や信頼関係を育て、価値観やルールを学びます。そして、地域は、世代間の交流を通して、人生の先輩から地域のよさを学び伝統文化を受け継ぎます。また、いろいろな人と関わることで、多様な価値観を学び、人間としての幅が広がります。

上宇部中学校区に、琴芝地区、上宇部地区合同で子ども達を育てようという地域協育ネットがあります。「夢たまごネット」です。現在、学校、家庭、地域だけでなく、子ども達自身も話し合いに参加して、何をするか考えています。今、それらが一つひとつ実際の活動として具現化しています。一つ目は「あいさつ運動」です。中学生と小学生が一緒になって、第2水曜日に行っています。二つ目は「地域清掃（クリーン作戦）」です。11月14日（土）に琴芝地区は神原公園の清掃を行いました。小学生、中学生、保護者、教員、地域の方合わせて、100名を超える人が集まり、約1時間落ち葉拾いに汗を流しました。三つ目は、子どもも大人も地域に愛着をもってもらうための「シンボルマークとスコットキャラクターづくり」です。それによって、自分たちの活動をするときにみんなの心を一つにしてみんなが住みよい地域をつくるという意識をもつことができます。コロナ禍で活動が制限されなかなかな思うようにできない時期もありましたが、今は「with コロナ」で様々な地域活動が再開されています。この夢たまごネットの活動が、子ども達の経験値を高め、子ども達の力がぐんぐん伸びることにつながり、また、子ども達の活動を通して地域が元気になるといいなと思っています。



クリーン作戦



校長のつぶやき

ある朝の出来事から（「あいさつ」について考える）



ある朝、登校してくる女の子達が、巡回中のパトカーに向かって、手を振りながらあいさつをしていました。すると、パトカーから「おはようございます」の返事が返ってきました。女の子達は大喜び。にこやかに校門を入っていきました。とてもほのぼのとした光景でした。一方で、あいさつをしても無視されてしまったという経験をしたことはないでしょうか。その時はどんな気持ちになるでしょうか。多くの人は不快に思ってしまうかもしれません。私もその一人です。そして、時には腹を立てることさえあります。しかし、それで人間不信になっては元も子もありません。ではどうするか。「相手の反応を素直に受け入れることを心がける」と良いそうです。相手の都合も様々なので、相手を責めず、謙虚に学んでいくことで、自分の心も大きく広く成長していくとのこと。そもそも『あいさつ』とは、自分から心を開いて相手に近づいていくことなので、「自分が相手にしてやったのに」という上から目線はいけないと、私も自分自身に言い聞かせています。（つもりです。）それでもやはり、あいさつが返ってくると本当に心が温かくなります。